

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1)および(2)は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また(3)は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

巻頭言

積小為大(せきしょうだい) 前田亜紀子(群馬大学)

校庭でよく見かける、薪を背負いながら本を読んで歩く姿の銅像で有名な二宮尊徳(金次郎)翁の言葉です。『大事を成さんと欲する者は、まず小事を務むべし。大事を成さんと欲して小事を怠り、その成り難きを憂いて、成り易きを務めざる者は、小人の常なり。それ小を積みば大となる。』

わかっているものの、なかなか実行に移せません。オランダの歴史学者ヨハン・ホイジンガによれば、人間はアゴニズムの精神がないと平凡から脱却できないと言います。学校や職場、コミュニティにおいて、競争を楽しみながら能力を発揮できるタイプと、競争心があまり旺盛ではなく、内観することで技能を高められるタイプがあります。誰もが生き生きと活躍できる環境を作り出すにはどうすればいいでしょう。

教員養成大学では、様々な校種や科目の授業を拝見する機会があります。指導案を頂くと、数時間の授業が1セットで1タームの長期的な課題になっており、短期的な課題をこなしていくうちに、自然と大きな課題を達成できる構成になっています。実際の授業では、導入部分のめあて(目標)の提示が重要なようで、これを明確に理解させることができれば、ほぼ全体がよい雰囲気で行進するところがあります。

教師は試行錯誤して教材を開発し、子ども一人一人の習得状況を見極めながらやる気を引き出します。技能と自信が身についた子ども達には、健全な競争心が芽生えているから不思議です。大きな期待を寄せてしまう一方で、理解、想像性、忍耐を示すことが、教育にとっていかに重要か、切に感じる今日この頃です。

2016年度 生理人類士優秀賞 受賞者

《準1級》 (4名)

大石恵美子(武蔵野大学)、樋口楓(福岡女学院大学)、酒井瑠璃子(群馬大学)、山田志奈乃(西川産業)

《2級》 (8名)

黒田順子・奈良原佑美(武蔵野大学)、今井遥奈・山本采(実践女子大学)、今村優花(福岡女学院大学)、島峻平(東北文化学園大学)、梶友香里(島根県立大学短期大学部)、小瀧奈美(西川産業)

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられます。(指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。)

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書き、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書(様式 B-1※)

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です(認定制度規程※参照)。

②資格要件に関わる開講科目一覧表(様式 B-2※)

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類(様式 B-2※)を作成して下さい。

③返信用切手(120円)

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。



寄稿

未来を描く 立川公子(武蔵野大学)

もし、このまま少子高齢化が止まらなければ、2度目の東京オリンピックが終わる頃に、日本人の暮らし方や働き方は転機をむかえる事になるでしょう。労働人口比率が低下すれば、経済力を維持するために種々の選択をしなければいけないからです。この将来予測は私たちに、どのようなライフスタイルに価値を見出し選択するのか、未来を思い浮かべなさい、と語りかけているようです。みなさんは、ご自身の暮らしをどうやってデザインされるでしょうか。

私は、自分自身の身体と心、そして環境との相互作用を学ぶことが、その助けになってくれると考えています。例えば、適切な睡眠やストレス緩和について知ることは、ヒトの持っている環境適応能力や、利便性の向上だけが豊かさではないことを教えてくれます。また、都市環境について考えることで、周辺環境から少なからず影響を受けている事に気付くと同時に、住民の居場所を創るための手がかりを掴める、かも知れません。これらは全て生理人類士の資格試験を通して学ぶことができます。もちろん、資格試験範囲は基礎的な内容に限られますが、人類の起源から身体や脳、生活環境について触れる事が、次の興味や関心につながってくれるはずで、明日につながる学びが生まれることを期待しています。

2016年度 資格認定者

《1級》 (3名) ※特別認定

古川雅嗣(西川産業)、安陪大治郎*(九州産業大学)、北村真吾*(国立精神・神経医療研究センター)

《準1級》 (9名)

大石恵美子(武蔵野大学)、樋口楓・中村菜穂子・小黑伽菜(福岡女学院大学)、大橋由貴・小笹杏子・酒井瑠璃子(群馬大学)、中江澄恵・山田志奈乃(西川産業)、

《2級》 (54名)

松原仁美・黒田順子・今村洋子・高橋美穂・斎藤綾乃・渡邊夏海・井草琴・鈴木楓・井本いずみこ・青木良太・笠原慎吾・平子優香・小池若葉・青木千萌・木曾帆南・日吉理沙子・小池祐生・寺田典・武村さや花・奈良原佑美(武蔵野大学)、那須ゆうみ・有馬佑実・井上瑞菜・猪股輝子・今井遥奈・佐川奈央・住吉沙月・富澤麻里子・能勢詩織・野中セーラ・福島いずみ・藤田日菜子・堀川円・森田揺香・山本采・渡邊亜美・小俣瑛子(実践女子大学)、宮崎みさき・今村優花・塚本晴菜・岡元汐莉(福岡女学院大学)、荒尾莉世・小松紗弥・島峻平・高橋希実・千葉光・秋葉暁・湯目雄一郎(東北文化学園大学)、森彩乃・梶友香里・富岡千晴(島根県立大学短期大学部)、青木真理・小瀧奈美・三宅皓大(西川産業)

生理人類士の声

生理人類士 準1級

大石恵美子さん(武蔵野大学通信教育部)

生理人類士を受験したいと思ったきっかけは、知人に見せてもらった「生理人類学入門」の本に、身近である自分の身体の状態を生体の機能やそのメカニズムに関連づけて分析していく面白さ教えてくれた生理学の基礎が載っていたので、ちょっと勉強してみようかと気軽な気持ちで始めました。実際に学んでみて、人類の歴史や環境の変化、また科学技術の進歩など、身体の視点だけではなく、さらに広く深い視野をもって人類の変化や適応性などを考察しているこの学問に懐の深さを感じました。何気ない周囲の日常生活で利用しているものや環境への視点も変わったと思います。これからは、生理人類学から見た新たな気づきや発見を大切に生活に活かして行きたいと思っています。

小黒伽菜さん(福岡女学院大学心理学科)

生理人類士準1級を受験して

今回準1級を受験したのは、前回生理人類士の2級を受験して合格することができ、私自身が「いかに現在の環境に適応し、より快適に暮らす事ができるのか」ということに興味があったからです。生理人類学という言葉は、大学の講義で初めて知りました。はじめは難しいと感じていましたが、学ぶ内容は身近なものばかりで、一度どこかで聞いた事のある内容が多く、苦に感じる事はありませんでした。2級に比べて、準1級は更に専門性の高い問題が多く、人類の歴史から文化にまで範囲が及ぶため対策が難しく、その範囲の広さに焦りを感じながらの学習でした。しかし、人類の歴史や人の身体の構造や感覚、音の環境、衣食住を中心とした内容は身近なものも多く、より深く学ぶ事ができました。

今回学んでいくうちに得た内容を活かし、人間が本来持つ能力を活かした環境改善についてより考えていきたいと思っています。

樋口楓さん(福岡女学院大学心理学科)

前回、生理人類士2級を受験し合格することができたので、今回、準1級を受験することに決めました。準1級の内容は、前回の2級とは違い専門的で応用的な内容が多く、とても難しく感じるものでした。試験に向けての対策では、教科書を何回も繰り返して読むことで、理解を深めました。

私は現在、大学で心理学を専攻しています。大学に入る前までは生理人類学という学問があることを知りませんでした。しかし、学んでいくうちに、心理的問題と環境による影響は関係があると分かり、また、自分の生活にも深く関係しているものでもあったので、生理人類学という学問が身近なものとして感じる事ができました。今回、準1級にも合格することができ、多くの知識を身につけ、また自分の興味を広げることができました。これからも、人の心のやすらぎや癒しについて、心理学の視点からだけでなく、生理人類学の視点からも考えていきたいと思っています。

酒井瑠璃子さん(群馬大学教育学部)

資格取得を通して

私は教育学部に在籍しており、春から家庭科の教員になります。資格試験にトライすることにしたものの、教育と生理人類学の関係をイメージできずにいました。昨秋、和倉温泉で開催された学会にゼミ生の応援で参加しました。正直、難しい専門用語が飛び交い理解できない発表ばかりでしたが、教育心理学の安藤寿康先生のご講演をお聞きでき、日々の大学での学びがリンクした瞬間、何とも言えないうれしい気持ちになりました。また学会の道中、富山大学河原雅典先生の研究室を訪問させて頂きました。子どもの座姿勢をよくする握木の開発秘話などお聞きするうちに、生理人類学は子どもの学校生活を支援することに役立つと強く感じました。今後は私がコーディネーターとして活かしてまいりたいと思っています。

山田志奈乃さん(西川産業)

生理人類士、名前からは難しそうな印象を受けましたが、身体の仕組みや特性を知ることが出来る興味深い内容で、昨年の2級に引き続き今年は準1級を受験しました。

私は仕事で枕の企画開発を行っていますが、寝具は人に使ってもらって初めて機能を発揮する物なので、意思とは無関係に発生する身体反応や生物として本来持っている能力について学ぶことは大きな収穫となりました。温度変化により汗をかいたり震えが起こる等の身体反応は私たちも日常的に経験します。今回、睡眠中に同様の環境変化が生じた場合に身体や睡眠にどのような影響・変化が起こるのかを総合的に知ることが出来ました。今後仕事にもすぐに活かしていけると感じています。

生理人類士 2級

黒田順子さん(武蔵野大学通信教育部)

生理人類士の資格にチャレンジしようと決めたいきっかけは、身近な問題に関連した内容であることに興味があり、生理人類学を学ぶことによって現在の仕事内容にも大変役立つと思ったからです。多くのストレスにさらされている現代の私たちにとって、本来の人間のあるべき姿について考え、健康的で快適に暮らしていくための機能や環境について深く知ることができる良い機会となりました。学習内容は広範囲に及ぶものでしたが、初めて出会う分野も日常生活に関わってくるため興味を持って知識を深めることができました。

事前に行われた試験対策講座では学習の進め方について丁寧にアドバイスをいただけたことが大変役立ちました。2級の合格を機に、更に知識を深めていきたいと思っています。

奈良原佑美さん(武蔵野大学人間科学部)

私は、高校3年生の頃から生理人類士の資格について興味を持っていました。大学生になり、生理人類学の講義を受け、ヒトの身体の生理現象や心の働きなど、基礎的なことを学び、さらに生理人類学という学問に惹かれました。そして、生理人類士の資格取得を目指すようになりました。

事前講座では、テキストの重要な点を押さえつつ、幅広い分野に触れながら、今までの知識も深めていくことができたため、自分自身のスキルを高めることに繋がりました。試験に向けて焦りや不安もありましたが、興味のある学問であったため、自発的な姿勢で取り組むことができました。

資格取得のために学んだことを様々なことと関連させて考えることで、得た知識をさらに自分のものにしていきたいです。

山本采さん(実践女子大学生活環境学科)

私の快適とは何か

今の私にとって最高に快適であるのは、目覚めたときの布団のぬくもりだ。冬の朝、布団の中は最高に快適であるが何故そうなのか。ひんやりとした空気感を覚え、外は寒いだろうと予想するため余計に布団の中を快適だと思うのではないだろうか。つまり、快適性を感じるためには不快というは必要不可欠であり、隣に不快があつてこそ、快適だと感じるができるのだ。厳寒の朝、鳥類、哺乳類、そして人類の多くは、巣や家でそのまま寝ていたい、外に出たくないと思うだろう。しかしずっと引きこもっているわけにはいかず、決然と外に出て各ステージにおいて新たな「快適性」を切り拓いていかななくてはならないのだ。そして帰って来て、再び眠り、目覚めるという繰り返しである。

今村優花さん(福岡女学院大学心理学科)

私は大学に入って初めて生理人類士というのを知りました。聞いたことのない言葉に惹かれて、生理人類士基礎、応用、演習を受講しました。受講するうちに、生活環境や人類に関することなど、自分に関わることばかりで、ますます興味がわきました。そこで、もう少し勉強しようと思い、資格取得の受験を決めました。勉強を通して思ったことは、自分のことなのに知らないことが多すぎるということです。勉強すればするほど、今まで知らなかった自分に対する気づきがありました。この検定を受けなければ自ら勉強をすることはあまりなかったように思うので、とても良い機会だったと感じます。また、知識が少しずつ増えているということが自分でも分かり、楽しかったです。資格試験を受けたことで、生きていることの意味を掘り下げて考えることが出来るようになったため、これからより豊かな生活を送っていけるような気がしています。

島峻平さん(東北文化学園大学建築環境学科)

生理人類士試験を受けて

大学2年生になり、生理人類学を学びました。初めは講義の内容が難しく、授業についていくのが大変でした。しかし、授業を受けていくにつれ人体の構造や環境について理解することができました。

本学科では様々な資格プログラムが開講されており、その中に「アメニティスペシャリスト資格取得プログラム」があります。先生からの薦めもあり、このプログラムの受講を決めました。プログラム内容は通常の講義と比べて専門的な内容でとても大変でしたが、より詳しく生理人類学について学ぶことができました。試験に合格するために約1ヶ月間は集中的に勉強を続け、合格という結果になってとても嬉しかったです。

これからはこの資格を通して学んだことを活かしたいです。

梶友香里さん(島根県立大学短期大学部)

以前から住宅などに興味を持っていましたが、大学に入って住生活学などを学ぶようになり、その分野により関心を持つようになりました。生理人類士2級も、私の所属する学系のカリキュラムで取得できたため、後期の学習目標として試験を受けることにしました。試験勉強を進めていく中で、なぜそのような現象が起こるのか原因を考えることが増えました。また、多くの内容は小中学校で習ったことの復習とその応用だったため、義務教育で学んだことは大学やその先につながっているということもわかりました。試験勉強中は卒論や他の授業の課題もあり大変でしたが、この中で学んだことを自分自身の生活に取り入れ、また、準1級や1級の内容にも取り組んでいきたいと思えます。

青木真理さん(西川産業)

私は現在、寝具メーカーで商品部として主に健康敷き寝具の開発や生産管理に携わっております。

私は、大学で人間発達科学部という学部にも所属していました。そこではいろんな側面からヒトに関わることを学び、そのなかには生理人類学にも共通するような内容も多くありました。また、その中で私は睡眠について4年間深く研究したこともあり、現在の職業に就くことに至りました。

睡眠と寝具は切っても切り離せない関係性があり、「ヒトにとって快適な睡眠環境とは」ということを考えるには、ヒトの機能的及び生理的な面を理解しているということはとても重要なことだと考えております。

最近では、“人生の1/3は眠っているから睡眠環境を整えることは大切だ”という認識の人が増え、睡眠への関心は広まってきていると感じます。もっと皆様に睡眠への関心を高めてもらうためにも、生理人類学についてより知識を深め、仕事に生かしていきたいと思えます。

2017年度資格認定試験

申込期間 2017年9月15日(金)～10月6日(金)

試験日 準1級・2級: I期 2017年12月2日(土)

II期 2017年12月9日(土)

1級: 相談の上決定

日本生理人類学会資格事務局
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
電話: 03-5389-6218
メール: jsppa-post@bunken.co.jp